

- ほ場の巨大区画化、汎用化等の基盤整備を実施し、集落単位で農地を集積・集約化。
- 巨大区画ほ場のメリットを最大限に活かすため、IT農業を導入・促進し、労働生産性の向上を実現。
- 巨大区画化やIT化により生み出された労働力を活用し、高収益作物を導入した複合経営を展開。

地区の特徴

平地地域

水稲・野菜

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

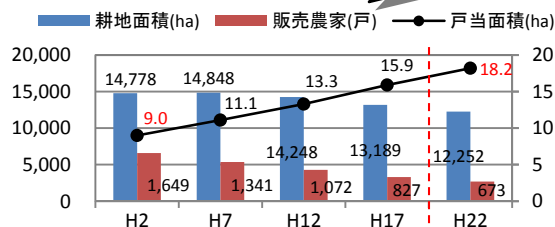
## 取組前

## 小区画で分散したほ場での営農

【営農規模】825 ha (0.2~0.5 ha/区画)

【経営体数】75戸

【作 目】主食用米

離農跡地を継承し、  
経営面積は拡大したが...

士別市の耕地面積と販売農家の推移

ほ場は小区画  
で排水不良

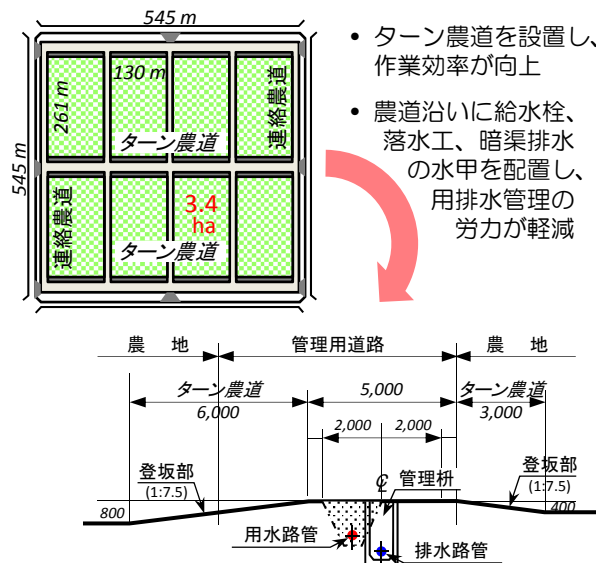
個人農家の農地の所有状況

→ ほ場が分散し、農業経営に支障

## 取組内容

## 巨大区画化と用排水路のパイプライン化

国営農地再編整備事業 (H21~)



- ・ ターン農道を設置し、作業効率が向上
- ・ 農道沿いに給水栓、落水工、暗渠排水の水甲を配置し、用排水管理の労力が軽減

## IT導入等の施設整備

【IT (GPSガイダンスシステム等) の導入】

【防除用無人ヘリ、草刈機等の購入】

中山間地域等直接支払交付金 (H21~)

【共同育苗ハウスの設置】

経営体育成交付金 (H24)



自動給水、播種機の導入等により育苗労働時間も軽減

## 取組後

## IT農業の導入による米の生産性の向上

【営農規模】825ha (標準3.4ha/区画)

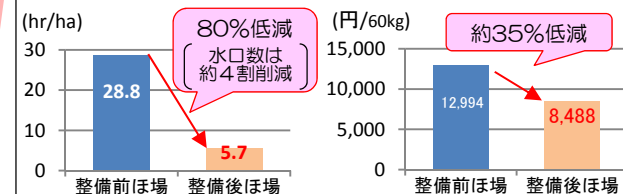
【経営体数】4法人

(2農事組合法人、2株式会社)

【作 目】主食用米、野菜、花き



## 【生産性の向上】



水管理に要する時間 (H25)

米の生産コスト (H26)

## 【高収益作物の導入】

- 大区画化やIT化により創出された労働力を活用し、土地利用型作物に加え、収益性の高い野菜等を導入した複合経営を展開

## 【担い手の確保】

- 新たに5名の担い手が就農 (H24~28)

## ◆ 誰がどのように・・・？

土地改良区の役員が各集落の代表となり、再整備の余地を残さないよう、大規模な区画で整備することを地域で話し合いました。

## ◆ 地域の意見を反映

農業者だけでなく、地区内の女性を対象とした研修会を開催して理解を深め、地域全体の意見を取り入れました。

## ☆ 巨大区画の不安は・・・？

広すぎるのではと不安の声もありましたが、大区画化の効果が目に見えて分かったと、農家自ら田植機を改良するほどになりました。

### きっかけ

経営規模を拡大しようにも農地が分散しており、効率的な農業経営ができない

経営体育成交付金を活用し  
共同育苗ハウスを設置



### Step 1 (H17～)

#### 集落の話合い

- 同じ水源に依存する4つの集落毎に、集落営農に向けた取組や整備方針を検討
- 基盤整備による省力化を最大限に活用するため、大区画化に対応する設備投資等について検討

### Step 2 (H21～)

#### 基盤整備の実施

- 整備水準の均質化により農地の流動化を促し、個別経営から集落営農の移行を推進
- 区画整理の進捗に応じ離農跡地の取得や、高齢農家からの貸借、営農作業受託等について調整

### Step 3 (～H25)

#### 法人化

- 事業実施期間中に、集落単位で4つの農業生産法人（うち2つは株式会社）を設立
- 新たな顧客の獲得に向けて、インターネットによる販売を開始

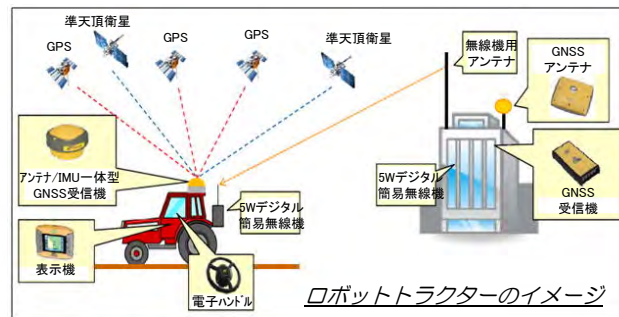


ネット販売米

### Step 4 (H23)

#### IT農業の導入

- 整備が先行する集落でGPSガイダンスシステム搭載型トラクターを導入し蛇行や重複走行を軽減
- 大区画ほ場のメリットを最大限に活かした効率的な機械作業を実現（作業時間が半減）



### 将来に向けて

- ☑ 4つの農業生産法人のネットワーク化（機械の共同利用、労働力の調整、作付作物の調整、他地域からの作業受託、ブランド化等）を通じ、地区全体の生産体制を強化
- ☑ GNSS（衛星利用測位システム）を活用した農作業ロボットの実用化を推進
- ☑ 加工販売等の可能性を研究し、さらなる高付加価値化を推進

今後の展望

### Step 6 (H24～)

#### 地域団体との連携

- トマトジュースや米粉パン等の加工・販売に取り組む地域団体と連携した6次産業化を推進



### Step 5 (H24～)

#### 無人機械の導入検討

- 受益農家（20～50代の担い手や後継者）が、大学や市と連携し「IT農業研究会」を設立
- 先端技術を活用したロボットトラクター（無人化）等の導入に向けて検討を開始

大学が農林水産省委託研究を実施

地域資源保全

地域づくり

再エネ等

水利施設整備

防災・減災力